

避難は学校や公民館といった指定緊急避難場所への移動だけではありません。住んでいる地域やその時の状況、人によって方法は異なります。普段からどう行動するか決めておきましょう

■立退き避難

● 町が指定した避難場所
● 安全な親戚・知人宅
● 安全なホテル・旅館
(通常の宿泊料が必要です。本書(総合防災ハザードマップ)で安全かどうかを確認し、予約しましょう。)



■屋内安全確保

本書(総合防災ハザードマップ)で自宅にいても問題がないか確認する必要があります。
● 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていないこと
● 浸水深より居室が高いこと
● 水が引くまで我慢でき、水・食料などの備えが十分にあること



ここなら安全!



■緊急安全確保

「立退き避難」を行う必要がある居住者等が、適切なタイミングで避難をしなかった等により避難が遅れたために、災害が発生・切迫し、立退き避難を安全にできない状況に至ってしまった場合に、命の危険から身の安全を可能な限り確保するため、その時点にいる場所よりも相対的に安全である場所へ直ちに移動等することが「緊急安全確保」です。



● 自宅の少しでも高い場所に移動
● 近隣の少しでも高い建物に移動
● 崖から離れた部屋に移動

避難所について

避難所では生活ルールを守りましょう

- 起床や就寝の時間、トイレの使い方、喫煙場所、ペット同伴の可否など避難所のルールを守りましょう。
- ほかの人の居住スペースに立ち入ったり、のぞいたり、大声をあげたりするのはマナー違反です。

役割分担して運営に参加しましょう

- 避難者もできる範囲で、受付や清掃、炊き出し、物資の配布など役割分担をしましょう。
- みなさんで助け合いながら避難所運営に参加しましょう。



ベッドやプライバシー確保に努めましょう

- 段ボール型のベッドの設置は足腰の弱い方に有効です。
- プライバシーの確保のために間仕切り(パーテーション)などがあると便利です。



ペットの避難

ペットの同行避難は各避難所に定められたルールに従いましょう。避難者がいるスペースから離れ、決められた場所につないだり、持参したケージ(おり)等に入れたりするなど、飼い主が責任を持って世話をしましょう。

■災害時の心構え

避難所には、動物が苦手な人やアレルギーを持っている人など様々な人がいるので、周りの人に配慮しましょう。



■ペットのしつけと健康管理

普段からケージやキャリーバッグ等に慣れさせておき、決められた場所で排泄ができるようにしておきましょう。予防接種や寄生虫の駆除をしておきましょう。

■ペットの避難用具・備蓄品の用意

食料、リードやキャリーバッグ等、避難先での飼育に必要なものを予め用意しておき、持参しましょう。ペット用の避難物資が届くまでには時間がかかる場合があるので7日分は用意しておきましょう。



ウイルス等の感染症が収束しない中でも、**災害時には**

危険な場所にいる人は避難することが原則

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、適切な行動をとりましょう。

知っておくべき 5 つのポイント

- 1 避難とは「難」を「避」けること**
自宅での安全確保が可能な人は、感染のリスクを負ってまで避難所に行く必要はありません。
- 2 避難先は学校・公民館だけではありません**
避難所が過密状態となることを防ぐため、安全な場所に住む親戚・知人宅に避難することも検討しましょう。
- 3 マスク・消毒液・体温計を自ら準備**
避難所の備蓄には限りがあるため、できるだけ自ら携行してください。
(マスクがない場合にはタオル・ハンカチ等、消毒液はウェットティッシュでも代用できます)
- 4 避難場所、避難所の変更・増設を確認**
本書発行後に情報が変わる可能性もあります。あらかじめ町のホームページ等で確認してください。
- 5 豪雨時の屋外の移動は車も含め危険です**
避難場所への経路など周囲の安全確認を十分に行ってください。

避難先では感染症予防に努めましょう

- **避難所に入る前に**
感染の拡大を未然に防ぐことが非常に重要です。避難所に入る前に、発熱の有無など体調チェックを行いましょう。
- **換気の実施**
可能な限り、定期的に換気を行いましょう。換気は季節を問わないので、寒暖差への防寒対策も必要です。
- **「3密」(密閉・密集・密接)の回避**
避難者同士2m程度の距離を保ちましょう。向かい合わせではなく背中合わせに座ったり、段ボールなどの間仕切りを利用すると、飛沫感染の予防になります。また食事時間をずらすなどして、密集・密接を避けましょう。
- **咳エチケットの徹底**
飛沫感染の予防のため、咳などが出ていなくてもマスクを着用しましょう。
- **日々の健康状態をチェック**
定期的に体温を測定し、体調の変化を感じた場合にはすぐに避難所のスタッフに相談しましょう。

